

六組 四場面

作者は、「えびフライ」は父親が子どものために夜も寝ないで冷やし続けてくれた土産で、喜作のよりはいいものであると表したくて、喜作を登場させた。

江畑さん

作者は、主人公にとってどれほどえびフライが大きな存在なのかや、えびフライがあるために自分が大きくなっているような気持ちや、先輩の喜作との会話で引き立たせるために、喜作を登場させた。

竹中君

作者は、父親の愛情が詰まったえびフライがどれだけ大切なものを伝えるために、喜作という人物を登場させた。

田中君

作者は、主人公がどのくらいえびフライを自慢したいか、えびフライが気になっっているのかを、分かるようにするため、喜作を登場させた。

久保田君

☆ 作者は、主人公がお土産でもらったえびフライのすごさを強調させたかったので、平凡なお土産をもらった喜作を登場させた。

青谷さん

作者は、主人公の父親が買ってきてくれたえびフライの大切さ、重要さをよりいっそう大きくするために、喜作という人物を登場させた。

加藤さん